

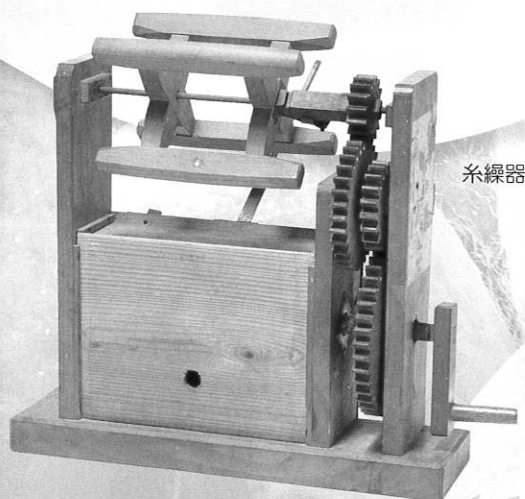
「養蚕」とは、良質な絹糸を作り出す「蚕」を育てる産業です。蚕と人間との関係は長く、弥生時代から養蚕が行われたといわれており、江戸時代中期頃からは全国的に蚕糸の生産が盛んになりました。明治時代になると、養蚕業は製糸業と共に日本の産業の中心を担いました。この全国の養蚕業への波は、富山においても例外ではなく、八尾地域では、19世紀後半から養蚕業の土台が築かれ、のちに「蚕都」と呼ばれるようになりました。また、当館は山田村で養蚕を営んでいた農家を移築して開館したという歴史もあります。

本企画展では、養蚕業がどのように行われていたのか民具を用いて紹介するとともに、養蚕業に関する信仰や富山の養蚕業の歴史、そして現代に続く養蚕業についてみていきます。

9月27日(土)から
12月24日(水)まで、
富山市売薬資料館で
企画展「蚕の神さま」が
開催されます。



衣襲明神



糸繰器



○展示解説

日 時：7月26日(土)13:30～(30分程度)
場 所：民俗資料館
申 込：不要
参加費：要入館料(100円)

○ワークショップ

「繭玉人形をつくってみよう」

日 時：8月11日(月・祝)
午前の部(10:00～) 午後の部(13:30～)
場 所：民俗民芸村管理センター 講座室
対 象：小学生以上(小学生は保護者同伴)
定 員：各回7名(先着順)
申 込：電話で申し込み
(管理センター〈076-433-8270〉まで)
参加費：無料